

□初夏の會として、是非、カラツと晴れたお天氣であつてほしかつたが、生憎、ドンヨリした何だか頭痛でもしそうなお天氣だつたのが、返すくも惜かつた。筆記席に落ちつかぬ腰を下して、向ふ側のテーブルの上の、シネラリヤの紫の花にさす淡いかげを眺めてゐる中に、開會の辭がすんでしまつた。

□校長先生は、御都合がおわるくて御出席がなかつたが、下村先生、齋藤先生、垣内先生、小此木先生はじめ、澤山の先生方が御出席下さつた事は、會員の大きな喜であつた。會員が熱心に聞いて呉れたのもうれしかつた。熱心に話をきくといふ事が、どんなに講演者に、力強さを與へるかわからない。

□二階堂先生の御話は談叢にゆづるが、四番目の、「過去に於ける日本の女子」といふ問題は何しろ膨大な題材である。今日は、これを時代別にし、家庭に於ける女子の社會に於ける女子——といふ風に列述された。これも一法である。然し、これはもつと年代を狭くするか、または、限つた一つの問題を捕へて、これを深く、狭く突つ込んで研究したならば、或は、より一層成功しはしないかしら。それはそれとして、お天氣の故か、日が早く暮れる様に思つて、先をいそいだ結果、最後の部分等は省略した所が多く、講演者には大變氣の毒であつた。三人の方の話の間に統一がない様に思はれたならば、それは、講演者の罪ではなく責任はこちらにある事を御斷りして置く。

□朗讀は今度も大變よかつた。吾々は、今後もこの方面について、もつと研究して行きたい。

□豫定の通り四時過に閉會した。今度の會は、何だか不用意であつた様に思つて、後片付をしながら限りなく淋しかつた。次の會からは、もつと努力し、もつとごうかしやうと祈りながらこの稿を終る。

(一六、一五、K、H、)

第十一回會計決算報告

(自大正四年三月十一日
至全四年六月廿三日)

一、収入金額 九六、一〇〇

内 譯

五五、八〇〇 第三學期繰越高
一八、八五〇 賛助員二〇名會費
二一、四五〇 會員一四一名會誌實費

一、支出金額 五七、二九〇

内 譯

五、〇〇〇 會誌發送料
四九、九七〇 會誌第十一號四百五十部印刷代
二、三二〇 雜費

一、差引殘高 三八、八一〇

右之通り相違無之候也

大正四年六月二十三日

文科會會計係

大正參年度分 會費 領 收

山邊ふみ 野津みどり 高橋すゑ 鹽澤ふき 有木ふく
大正四年度分

筒井たか 岡田いし 村田よしむ 佐々木清 菊田さよ 尾台はる

大正二、三年度分

大正三、四年度分

大正二、三、四年度分

會員三動靜

一、入會者

(文科一年生) 三十七名

岩田テイ 石田セツ 登利屋カツ 小曾戸フク 小川タカチ
鷲山さき 片山トケノ 横山八重 吉岡静江 谷川さこ
高田アヤコ 津田ユキ 筒井八重 上杉いよ 上竹順子
野村すへ 桑田勝子 倉地薫 矢島愛子 山口ツルエ
松尾トリ 木下フサナ 島岡ノブ 平野コハナ 佐藤ヨシコ
植野きよ 藤岡わか 鹽島智恵 森泉克己
加藤シツエ

(聽講生) 二名

鄭 聰 聆 趙 之 碩

一、宿所變更

野村すゑ (現住所)東京市牛込區早稻田鶴卷町四四
高橋 節(舊姓大鹽)(現住所)東京市麴町區中六番町四番地

一、退會者

法貴すえ

一、死亡者

岡本せつ

一、現在會員數

客員 三十三名
贊助員 二百七十五名(校内十一名、校外二百六十四名)
在校會員 百四十九名

一、役員交迭

部長 小此木先生
編輯 武川正代 中島ヒサ 河井さかえ 廣田テイ
庶務 田中好江 生田みつ 島山さし 岩田てい
會計 新田 薫 松平友子 粒木つね 植野きよ